

南太平洋の小さな島：フィジーからの便り #5

2024年5月派遣 天野久雄（シニア）
第5号 10月20日



こんにちは。フィジー国立大学で数学を教えている天野です。5か月のフィジー生活が過ぎました。ラウトカは、ほとんど雨が降りません。これまでに日中に雨が降ったのは、たったの3日間です。日中の気温は32度前後です。木陰や職場、夜間は涼しいです。これから先も、ズーと同じような生活が続きそうです。今年の日本は暑くて大変だったようですね。私は顔が黒くなってしまいました。今回は私の授業や学生たちの話をします。気楽に読んでください。



私が担当している数学初等教育の講座は、講義とワークショップの2種類です。講義は週2回、それぞれ約1時間、ナンディのキャンパスとインターネット中継をしながら行います。今学期は着任早々なので、私は1回だけ講義をしました。左の写真がレクチャーホールです。プレゼンソフト(パワーポイント)を使って講義をします。プレゼンのスライドが30枚近くもあり、内容が膨大です。そこで早口の英語で講師の先生は解説していきます。英語で知らない専門用語がいっぱい出てくるので、初めのうちはよく分かりませんでした。そこで私は、知っているふりをしながら、とにかくメモをして覚えました。😓

プレゼンテーションは、論文や文献を読んで自分なりにとめた発表です。ただ読んだだけではだめです。自分なりの解釈や結論、オリジナリティが必要です。また発表の工夫も必要です。プレゼンテーションソフト(パワーポイント)を使って、4人程度のグループで発表します。20枚程度のスライドに、序論や仮説、本論、結論、参考文献が整理されていること。発表者は身ぶりや手ぶりを大きくして、大切な部分は口調を変えて話すこと。最後に質問を受けて明確に答えること。これらが発表者に要求され、先生に評価をされます。はじめて私がプレゼンを見たときは、大学生にしては上手だなあ、という印象を受けました。あとでわかったのですが、フィジーの大学生たちは高校生のときからこのような授業を受けていて、プレゼンに慣れています。😊

模擬授業は3人から4人でチームを組んで、1時間の授業をします。他の学生は小学生役です。模擬授業の準備に大学生たちは2週間かけます。指導計画の作成、教材の準備、リハーサルなどを教室やキャンパス内でします。私には日本の指導法を知りたいと、学生たちが相談に来ます。私は、英語で書かれた日本の教科書を使ってアドバイスします。日本の指導法はていねいで、良い評価を得ています。

※ 模擬授業の様子は次の号で紹介します。お楽しみに! 😊